



第23回

栃木県民福祉のつどい

平成29年8月29日
宇都宮市文化会館大ホール

栃身連

第129号

発行所
一般財団法人
栃木県身体障害者福祉会連合会
宇都宮市若草1丁目10番6号
とちぎ福祉プラザ2階
発行人 麦倉仁巳
TEL 028-624-8408
FAX 028-624-8418

県民全体が福祉について考
え、参加者が自らの活動への意
欲をより高める機会とするた
め、「第23回栃木県民福祉のつ
どい」が開催され、第一部式典
では、障害者関係で26名の皆さ
まが表彰を受けられました。
第二部は、漫才コンビB&B
で人気を博し、著書「佐賀のが
ばいばあちゃん」が大ベストセ
ラーとなった島田洋七氏を講師
に「がばいばあちゃんから学ん
だこと」と題して講演が行われ
ました。スピードとパワーあふ
れる話術で、祖母との生活を基
に語られるエピソードに会場は
終始笑い声につつまれました。

栃木県知事表彰

障害者自立更生者

宇都宮市 山本純一
足利市 永田秀夫
栃木市 浦沼要二
小山市 田村沼
大田市 田澤秀次
さくら市 白井新

障害者支援功労者

宇都宮市 伊藤藤夫
足利市 川崎高三郎
足利市 安達政弘
大田原市 鈴木達雄
那須塩原市 小畑正光
那須烏山市 黒崎みさ子
芳賀町 赤澤悦子

栃身協会長表彰

自立更生者

宇都宮市 平野のり子
足利市 小宮悦子
栃木市 吉岡力造
栃木市 藤澤洋二
鹿沼市 仲島昭二
矢板市 高橋三三
那須川町 那須利子

更生支援功労者

宇都宮市 小野美智子
鹿沼市 兼目ち子
さくら市 小森トシ
さくら市 稲沢夕力
那須烏山市 瀬戸清勝
壬生町 小平テル
(敬称略)

県民福祉宣言

私たちは、ふるさと「とちぎ」で暮らす全ての人々が、一人ひとり自立し、お互いに支え合い、助け合いながら、安心して、また、誇りを持って住み続けることのできる地域社会づくりを目指し「子どもを健やかに生み育てる環境づくりの推進」「人と地域の輪を広げ、ひとり親家庭への自立支援」「高齢者の健康と生きがいづくりの推進」「障害者の自立支援と社会参加の促進」「共同募金やボランティアなどの民間福祉活動への参加と協力の推進」に積極的に取り組みます。そして、ここに集う私たちをはじめ、本県の福祉関係者が一致協力して、県民の福祉に対する認識と理解を一層深め、ともに生きる豊かな福祉社会の実現に努めることを宣言します。

平成29年8月29日
栃木県民福祉のつどい参加者一同



平成29年度 関東甲信越静岡ブロック 身体障害者相談員研修会

平成29年7月21日、山梨県立図書館多目的ホールにおいて、山梨県障害者福祉協会の主管で開催されました。

基調講演

「障害のある子が「親なきあと」にお金に困らないために」

〈講師〉渡部 伸氏
渡部行政書士事務所代表

「親なきあと」相談室主宰

パネルディスカッション

「親なきあとの自立を考える」

〈パネリスト〉

雨宮 清昭氏
山梨県精神障害者家族会連合会副会長

越水 眞澄氏
山梨県知的障害者相談員等連絡協議会副会長

田崎 輝美氏
日本筋ストロフィー協会山梨支部支部長

〈コーディネーター〉

山西 孝氏
山梨県知的障害者支援協会会長

栃木県からは4名の相談員が参加のとおりの感想等が寄せられました。

講演では、親が丈夫なうちに、親なき後の子供の生活について考えておくことの大切さとともに、具体例を挙げて、成年後見人の選定や問題について教えていただきました。

パネルディスカッションでは、パネラーそれぞれの取り組みについて紹介があり、親なき後の障害者の財産管理や生活について、問題点と対策について知ることができました。

山梨県障害者福祉協会は身体障害のみではなく、すべての障害を持つ人に情報提供やアドバイスをしており、精神障害についてはまだ相談員制度が定められていませんが知的や精神の障害の方に対する相談活動の大切さを知ることができました。

地域によって差があるが、障害基礎年金を貰っている人は、グループホーム等に入居できれば大丈夫との話があった。栃木県はグループホームが十分にあるのかが心配です。

親なきあとの自立を考えるには、色々な支援団体の方々に、障害者と健常者のつながりを持ってもらいたい。地域の架け橋、パイプ役になってほしい。相談内容を社会の中につなげ知らせる活動をしてほしい等の話がありました。

平成29年度 栃身連研修会

第1回 4月12日 とちぎ福祉プラザ

「表情筋ほぐし・笑み筋体操」

〈講師〉一般社団法人ハッピーネット

アドバンストインストラクター

水谷 鏡子先生

インストラクター

柏木 聖子先生

毎日笑う習慣をつけてもらうために開発されたストレッチ運動で顔の表情筋を動きやすくします。

笑顔をつくる表情筋を強制的に動かすことで、自然に笑ったときと同じように脳が楽しく感じるというメカニズムに関する講話とともに実技を指導していただきました。



第2回 8月1日 とちぎ福祉プラザ

「交通安全講習会・高齢者の交通事故防止のために」

〈講師〉栃木県警察本部交通企画課

高齢者対策係 川永 大輔係長

今年の交通事故発生状況等の説明と道路横断中の死亡事故が多発していることから、自身の歩行速度を自覚して、絶対に横断できる安全確認をすることが重要であるとの講話がありました。後半は模擬横断教育装置「渡り上手くん」を使用した体験がありました。



第17回 全国障害者スポーツ大会
えがお
“愛顔つなぐえひめ大会”

平成29年 10/28(土)～30(月)
愛媛県総合運動公園陸上競技場他各競技会場

障害のある選手が競技等を通じ、スポーツの楽しさを体験するとともに、多くの人々が障害に対する理解を深め、障害のある人の社会参加を推進することを目的として開催される国内最大の障害者スポーツの祭典です。オリンピック終了後に開催されるパラリンピックと同じように、毎年、国民体育大会終了後に開催されています。平成29年度は、愛媛県で開催される秋季国体の直後に「第17回全国障害者スポーツ大会」が開催されます。大会は3日間の会期で開催され、全国から都道府県・指定都市選手団約5,500人が参加し、個人競技6競技、団体競技7競技の13競技及びオープン競技が実施されます。

栃木県からは身体障害者13名、知的障害者17名の合計30名が代表選手として派遣されます。

各競技会場へは自由にご入場いただけます。是非応援にお出かけください。



競技会場等は下記ホームページをご参照ください。

<http://www.ehimekokutai2017.jp>



《栃木県派遣選手》

所属または居住地	氏名	障害	参加競技	所属または居住地	氏名	障害	参加競技
1 作新学院大学	しまだ たかひろ 島田 貴裕	聴覚	陸上競技	16 佐野市立南中学校	おおしま かみる 大島 茄巳琉	肢体	水泳
2 宇都宮市	やじま かずみ 矢島 一美	肢体	陸上競技	17 益子町	こばなわ みき 小埜 美紀	肢体	水泳
3 宇都宮市	あさの としや 浅野 俊也	肢体	陸上競技	18 小山市	うえたけ かいせい 植竹 海晴	知的	水泳
4 塩谷町	あおき りゅうた 青木 隆太	視覚	陸上競技	19 真岡市	おくやま はるな 奥山 春奈	知的	水泳
5 県立盲学校	きのした あゆむ 木下 歩	視覚	陸上競技	20 県立聾学校	よしおか まゆ 吉岡 茉由	聴覚	卓球
6 県立特別支援学校 宇都宮青葉高等学園	まつした ゆうや 松下 裕哉	知的	陸上競技	21 さくら市	まつおか かずのり 松岡 一徳	肢体	卓球
7 県立特別支援学校 宇都宮青葉高等学園	すぎもと しおん 杉本 汐夢	知的	陸上競技	22 小山市	ほしの ゆきひこ 星野 幸彦	視覚	卓球 (サブドテールテニス)
8 県立特別支援学校 宇都宮青葉高等学園	なかがわ まさき 中川 壮気	知的	陸上競技	23 佐野市	さかきばら まさと 榊原 将人	知的	卓球
9 宇都宮市立 一条中学校	うすい ゆうと 臼井 悠斗	知的	陸上競技	24 鹿沼市	やの みつこ 矢野 美津子	聴覚	フライングディスク
10 県立国分寺 特別支援学校	うえき ゆうき 植木 雄樹	知的	陸上競技	25 宇都宮市	やまだ としお 山田 利男	聴覚	フライングディスク
11 県立益子特別 支援学校	すぎやま とみみ 杉山 智美	知的	陸上競技	26 日光市	えだ まさひこ 江田 雅彦	聴覚	フライングディスク
12 県立益子特別 支援学校	わかばやし すいみ 若林 粋美	知的	陸上競技	27 芳賀町	こばやし かずや 小林 和弥	知的	フライングディスク
13 県立那須特別 支援学校	たしろ りゅうじ 田代 龍二	知的	陸上競技	28 県立南那須 特別支援学校	おおがね ゆうき 大金 雄樹	知的	フライングディスク
14 県立富屋特別 支援学校	やなしま みゆう 築島 美優	知的	陸上競技	29 足利市	まちだ やすあき 町田 靖晃	知的	ボウリング
15 壬生町	なかしま たつや 中嶋 達也	知的	陸上競技	30 壬生町	みやもと めぐみ 宮本 恵	知的	ボウリング

ヘルプマークの配布

配慮を必要としている方のための「ヘルプマーク」。全国で導入が進んでいますが、栃木県では本年度導入され、8月1日から希望者に配布が始まりました。義足や人工関節を使用している方、内部障害や難病の方など、外見から分からなくても援助や配慮を必要としている方々が、周囲の方に配慮を必要としていることを知らせることで、援助が得やすくなるよう作成されたものです。



ヘルプマークをつけた方を見かけたら

- 電車・バスの中で席をお譲りください。
- 駅や商業施設等で、声をかけるなどの配慮をお願いします。
- 災害時は、安全に避難するための支援をお願いします。

配布場所

栃木県庁総合案内、県内各健康福祉センター、県内各市役所及び町役場、とちぎ福祉プラザなど

問 栃木県保健福祉部障害福祉課社会参加促進担当
〒320-8501 宇都宮市埜田1-1-20
(TEL) 028-623-3053 (FAX) 028-623-3052
(E-mail) syougai-fukushi@pref. tochigi. lg. jp

栃身連女性部主催行事

料理教室  飲茶を楽しみましょう

飲茶(ヤムチャ)は、お茶を飲みながら点心(餃子、焼売、中華饅頭等)をとる中華風の軽い食事のことです。家庭でも簡単に作れる点心、中華スープ、杏仁豆腐等を覚えてみませんか!

[開催日時] 平成29年11月6日(月) 9:30~12:30
[開催場所] とちぎ福祉プラザ1階 調理実習室
[参加費] 2,000円
[申込締切] 平成29年10月5日(木) まで

からくりカレンダー作り

色紙2枚を使って作る片面半年分ずつのカレンダーです。開くときにちょっとしたからくりがあります。お好みの絵や写真を貼って来年のカレンダーを手作りしてみませんか!

[開催日時] 平成29年11月6日(月) 13:00~14:30
[開催場所] とちぎ福祉プラザ1階 特別会議室
[参加費] 500円
[申込締切] 平成29年10月12日(木) まで

問 栃木県身体障害者福祉会連合会
(TEL) 028-624-8408 (FAX) 028-624-8418
(E-mail) toti-sin@juno. ocn. ne. jp

 この機関紙は
赤い羽根共同募金配分金により発行しています

障害者による書道・写真全国コンテスト

日本障害者リハビリテーション協会主催の第32回全国コンテスト、障害のある方々の文化・芸術活動の促進と技術の向上、またそれらの活動を通じた積極的な自己実現と社会参加の促進を目的に行われています。

応募資格

- ①「身体障害者手帳」「療育手帳」「精神障害者保健福祉手帳」のいずれかの交付を受けている方
- ② 難病による障害のある方
- ③ ①または②と同等であると主催者が認めた方
但し、当コンテスト各部門において3回以上入賞されている方は審査の対象外となります。

募集内容

書道部門 硬筆・毛筆 題材は自由
半紙サイズ、硬筆はA4サイズ
写真部門 フリーの部 題材は自由
ポートレートの部 題材は人物
携帯フォトの部 題材は自由
四ツ切、ワイド四ツ切サイズ
デジタルカメラ作品はA4サイズも可

応募締切 平成29年9月22日(金)

ご注意 応募作品の返却はありません
詳細を必ずお問い合わせのうえご応募ください

応募取りまとめ機関・作品送付先

栃木県障害者社会参加推進センター
宇都宮市若草1-10-6 栃木県障害者スポーツセンター内
(TEL・FAX) 028-678-4401 E-mail: info@tochi-shinkyō.org

社会参加促進事業・バスで行く社会見学

身体障害者の健康増進及び社会参加推進を目的とします。電波塔の高さ世界一を誇る「東京スカイツリー」(634m)の展望デッキ(350m)と展望回廊(450m)を見学します。また、徳川将軍家の別邸であった大名庭園「浜離宮恩賜庭園」までは隅田川ラインの水上バスで45分遊覧、散策を楽しみましょう。



[対象者] 身体障害者手帳をお持ちの方
[目的地] 東京スカイツリー・^{はまりきゅうおんしていえん}浜離宮恩賜庭園
[実施日程] 平成29年10月2日 出発6時/帰着18時
[出発場所] 宇都宮市若草1-10-6 とちぎ福祉プラザ
[参加費] 8,500円(バス代、入場料、乗船料他)
[申込締切] 定員(35名)になり次第

※留守番電話は24時間セットしてございますので
参加ご希望の方はご伝言をお残しください。

問 栃木県身体障害者福祉会連合会
(TEL) 028-624-8408 (FAX) 028-624-8418
(E-mail) toti-sin@juno. ocn. ne. jp